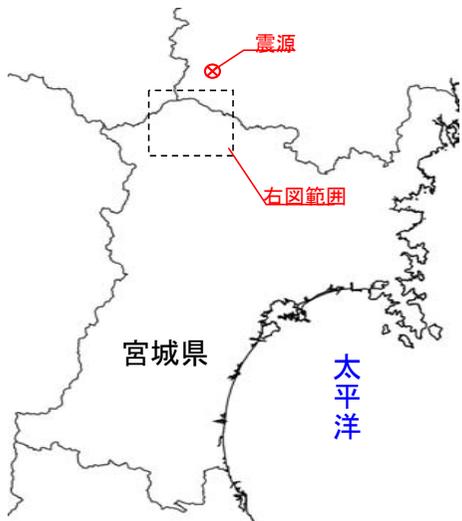


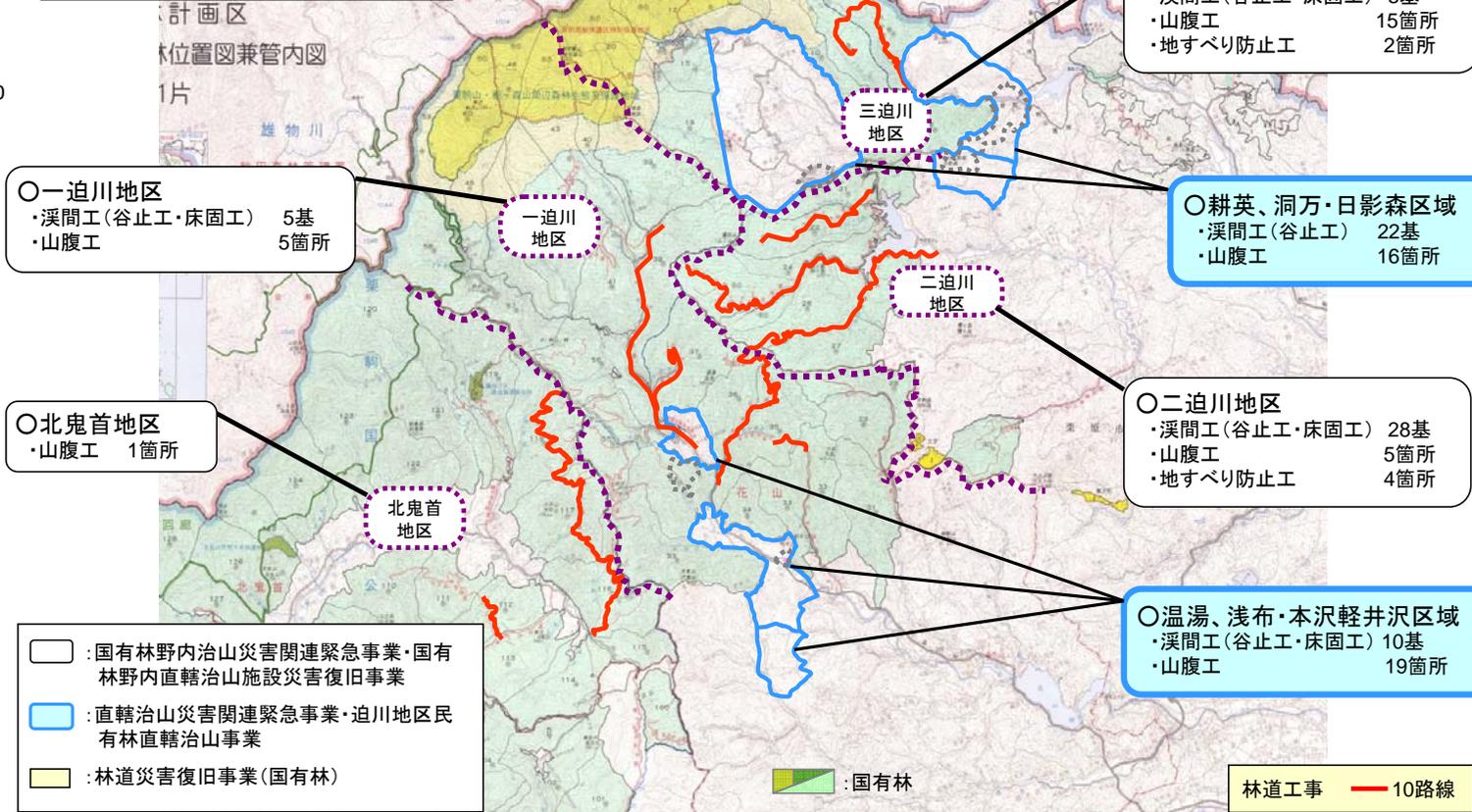
概要

平成20年岩手・宮城内陸地震による被災箇所のうち、平成23年度末までに国有林治山事業で溪間工41基、山腹工26箇所、地すべり対策工6箇所、民有林直轄治山事業で溪間工32基、山腹工35箇所、林道災害復旧事業で10路線を整備しました。平成24年度は、国有林治山事業で6件、民有林治山事業で10件の工事をを行います。



岩手・宮城内陸地震の記録
2008年6月14日 午前8時43分頃発生
地震の規模 M7.2
最大震度 6強(宮城県栗原市、岩手県奥州市)
震源地 岩手県内陸南部
地震の深さ 約8km
山腹崩壊箇所 1,062箇所(宮城県内、H20東北森林管理局調べ)

宮城北部森林管理署 主要災害復旧箇所 位置図



○一迫川地区
・溪間工(谷止工・床固工) 5基
・山腹工 5箇所

○三迫川地区
・溪間工(谷止工・床固工) 8基
・山腹工 15箇所
・地すべり防止工 2箇所

○耕英、洞万・日影森区域
・溪間工(谷止工) 22基
・山腹工 16箇所

○北鬼首地区
・山腹工 1箇所

○二迫川地区
・溪間工(谷止工・床固工) 28基
・山腹工 5箇所
・地すべり防止工 4箇所

○温湯、浅布・本沢軽井沢区域
・溪間工(谷止工・床固工) 10基
・山腹工 19箇所

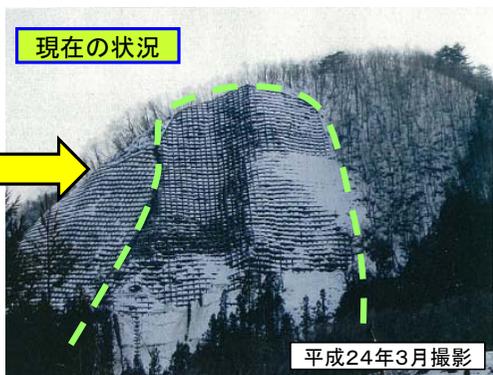
- Legend for map symbols: 国有林野内治山災害関連緊急事業・国有林野内直轄治山施設災害復旧事業, 直轄治山災害関連緊急事業・迫川地区民有林直轄治山事業, 林道災害復旧事業(国有林), 国有林, 林道工事, 10路線

被災地の復旧状況 (山腹工の事例)

本崩壊地は栗原市栗駒字沼倉に所在する栗駒岳国有林に位置し、付近には県道等の重要な保全対象が存在します。被災時は県道まで崩壊土砂が流出、通行止めとなるなど地域社会に多大な影響が及びました。このため、被災時から復旧対策を進め、平成23年度には法枠工が完成しました。

被災地の復旧状況 (溪間工の事例)

本施工地は栗原市栗駒字沼倉耕英南地内に位置しています。尾根沿いを走る市道の谷側斜面が約130mにわたって崩壊し、谷に不安定な土砂が堆積しました。被害の拡大が予想されることから、復旧対策を進め、平成23年度は鋼製枠谷止工を設置しました。



平成24年度 工事施行箇所

復旧工事を進めます

- 1 浅布Ⅱ小川原(H24)
【山腹工(地山補強土工)】
地山補強土工を設置します。

- 2 温湯Ⅰ(H24)
【山腹工(落石防止ネット工)】
落石防止ネット工を設置します。

- 3 本沢軽井沢Ⅰ(H23)
【山腹工(コンクリート土留工)】
山腹工を行います。


復旧工事を進めます

- 7 荒砥沢 [溪間工(鋼製枠床固工)]

平成22年7月撮影



地すべりに伴う移動堆積した土塊により谷への土砂の堆積や湛水池が発生しました。

地すべり西側では貯水池へ土砂が流出しないよう、湛水の解消と溪流に堆積した土砂の固定を目的に、鋼製枠床固工を設置します。

また、東側では、湛水池の水を排水する施設の整備を進めます。

- 8 本沢軽井沢Ⅰ(H24) [溪間工(コンクリート谷止工)]

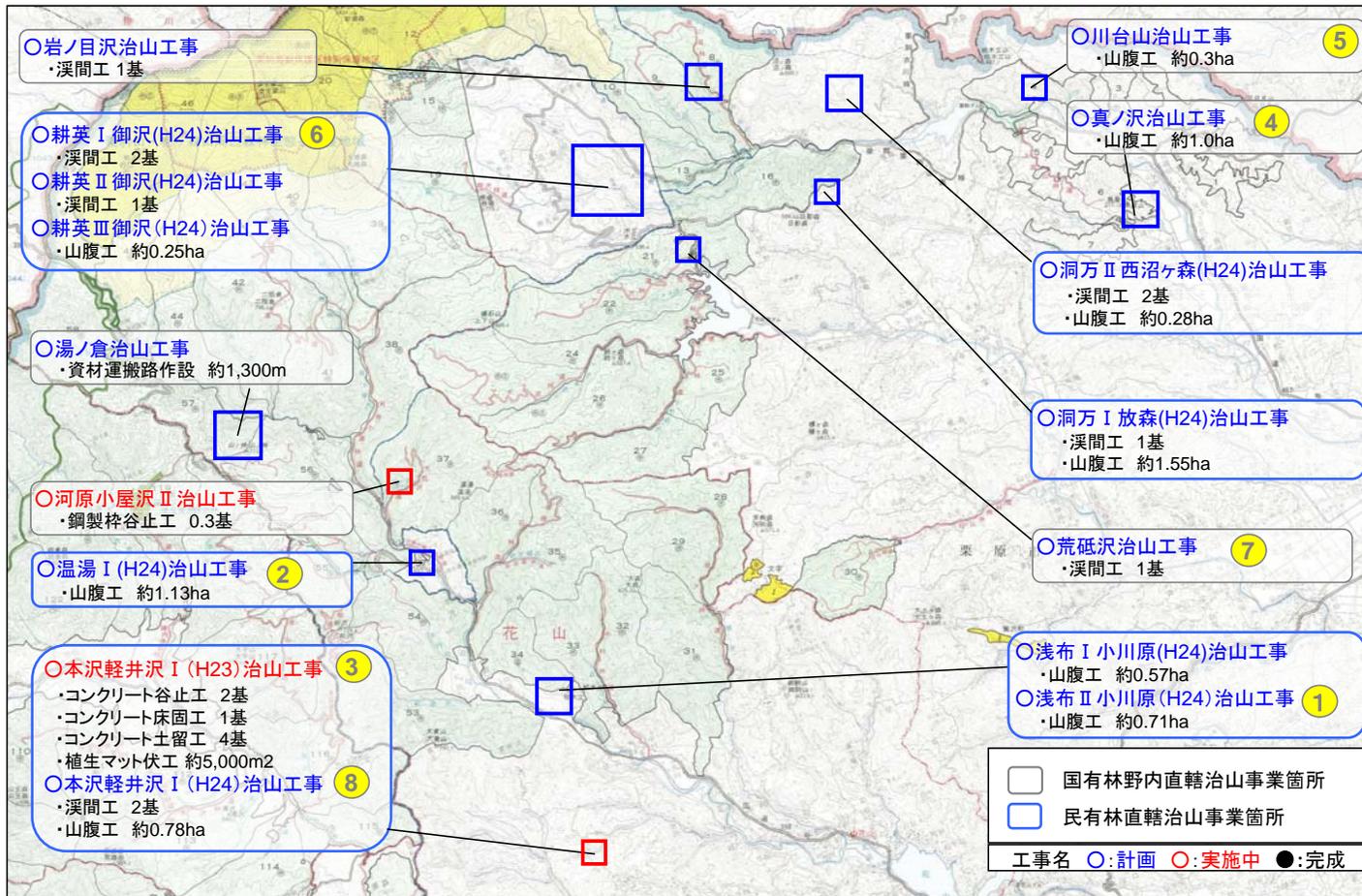
平成23年11月撮影



地震により山腹が崩壊し、土砂が直下の谷に堆積しました。

この土砂を固定し、崩壊の拡大を防ぐため、コンクリート谷止工を設置します。

また、木材の利用を促進させるため、型枠には間伐材を使用します。



復旧工事を進めます

- 4 真ノ沢 [山腹工(植生実播工)]
山腹工を行います。

- 5 川台山 [山腹工(簡易吹付法枠工)]
山腹工を行います。

- 6 耕英Ⅰ御沢(H24) [山腹工(コンクリート谷止工)]
コンクリート谷止工を設置します。
